

■桑沢洋子 服飾デザイナー・デザイン教育者。{桑沢デザイン研究所}を創立、東京造形大学へ発展した。

くわさわようこ

韓国併合・・・1910＝ 東京神田東組屋町で、新物に古着も扱う洋服問屋の五女に生まれる。

明治天皇没・1912＝ 2歳：

民本主義・・・1916＝ 6歳：和泉小学校に入学。

へんじん条約・1919＝ 9歳：

父が中風を患って家業が思わしくなくなったため、

原敬首相暗殺1921＝11歳：

水平社結成・1922＝12歳：神田高等女学校に入学。

関東大震災・1923＝13歳：次姉君子発案の洋裁店開業のため、一家で小石川区大塚に移住。大震災の悲劇にも遭わずに済んだ。

治安維持法・1925＝15歳：アメリカ・フォード社が経営する自動車練習所に通い始めた三姉貞子に次姉君子も同調、

金融恐慌・・・1927＝17歳：貞子がおこの技手と結婚してしまったため、君子がフォード一台を購入し、タクシー業に転身。

共産党事件・1928＝18歳：父が死去。女子美術学校(女史美大)師範科西洋画部に入学、

海軍軍縮条約1930＝20歳：続いて母も死去したが、タクシー業成功で普通に生活が続く。

満州事変・・・1931＝21歳：

五一五事件・1932＝22歳：

女子美術専門学校西洋画部師範科卒業し、神保町のカフェで働き始めるとともに、{アトリエ社}からペン画仕上げの仕事をもらって教員と匹敵する収入を得たことから、軍人志望者向け参考書を出していた印刷会社に勤め、校正・挿絵・カットを一手に引受けさらに高収入を得た。仕事するうち、

国際連盟脱退1933＝23歳：

夜学(新建築工芸学院)を知ると早速入学、主宰者の建築家川喜多煉七郎と運命的出会い、バウハウス流教育による近代デザインを知る。同門亀倉雄策との親交始まる。川喜多の紹介で月刊誌{住宅}記者となり、

帝人疑獄事件1934＝24歳：

一級の建築家たちに直接触れるなか、取材で同行した写真家田村茂と結婚。

二二六事件・1936＝26歳：

この間、川喜多が発行・刊行する書誌の編集も合せて手伝っているうち、

日中戦争始・1937＝27歳：

川喜多を通じて{婦人画報}新年号別冊付録の仕事が舞込み、成果が評価されて、

総動員+健保 1938＝28歳：

{婦人画報}新年号に「洋服シルエット」という付録をつけ、

第二次大戦始1939＝29歳：

日本版{ヴォーグ}たるB4オールグラビア(洋服シルエット)とし、土門拳ら一流写真家と仕事するも、

大政翼賛会・1940＝30歳：

戦火拡大で休刊。

日米開戦・・・1941＝31歳：

日米開戦によって雑誌発行が急激に厳しくなったため、

近代の超克・1942＝32歳：

{東京社}を退社し、銀座に、働く女性のために機能的なデザインを提唱する{桑沢服飾工房}を開き、服飾デザイナーとしての第一歩を記すも、

年金+総武装 1944＝34歳：

三姉貞子に続いて長姉も病死。{桑沢服飾工房}を閉鎖。夫が軍部要請に依らず逃亡生活を送るなか、夫の義弟が住職を務める新潟県津南の曹洞宗の寺に疎開。

敗戦・・・1945＝35歳：

敗戦後直ぐに焼け残った目黒の自宅に戻り、{婦人画報}復刊一号に参画、編集アルバイトの高松太郎と知り合い、以後長期に活動が支えられる。

新憲法公布・1946＝36歳：

\*宮内裕とコンビで「家庭着と外出着」「ホームドレス集」をつくり、戦後の服飾界に実質的一步を踏み出す。

新憲法施行・1947＝37歳：

{婦人画報}連載で服装相談室が好評で依頼され、無料服装相談室を始める。空前の洋裁ブームのなか、

極東裁判決・1948＝38歳：

結成された服飾デザイナーの職能団体{日本デザイナークラブ}に参加。多摩川洋裁学院長に招聘される。

朝鮮戦争始・1950＝40歳：

母校女子美術短期大学講師に就任。相談室から派生した{服装文化クラブ}で「アカ呼ばわり」され、

独立回復・・・1951＝41歳：

解散させる。{婦人朝日}依頼の「移動相談室」の仕事で全国各地を回り始める。田村茂と離婚。

テレビ放送始・1953＝43歳：

高松から提案された「デザイン教室」を実施するうち、常設化を考えるようになり、

自衛隊発足・1954＝44歳：

{服装}。{桑沢デザイン研究所}を設立するが、経営が困難となったため、

55年体制始・1955＝45歳：

荻窪の自宅に有限会社{桑沢デザイン工房}を設立して対応に苦慮するうち、うわさも広がって、

なべ底不況・1957＝47歳：

「ふだん着のデザイナー」。\*にわかには苦境から脱し、{学校法人桑沢学園}を設立して理事長に就任。

イスタトラン・1958＝48歳：

新校舎も落成。第1回ファッション・エディターズ・クラブ賞受賞。

安保闘争・・・1960＝50歳：

イタイタイ病始・1961＝51歳：

施設・内容とも「デザインの城」に相応しいものとなる。「基礎教育のための衣服のデザインと技術」、優れたデザイナーを輩出しながら、服飾デザインの執筆活動や講演会・デザインコンクール審査員など、女性の地位向上の啓蒙につとめる。

東京リビッヅ 1964＝54歳：

創立十周年を契機に、

いざなぎ景気1966＝56歳：

東京造形大学を開学し、学長に就任。

震ヶ関ビル・1968＝58歳：

初めての海外旅行でヨーロッパを訪問するも、体調などから途中で打切る。

全共闘・・・1969＝59歳：

全共闘の波が{桑沢デザイン研究所}にも押し寄せ、苦難が始まる。

日中国交回復1972＝62歳：

騒動がようやく終息向かうも、今度は東京造形大学が紛争に巻き込まれ疲労困憊、まず{桑沢デザイン工房}を解散。

石油ショック1973＝63歳：

\*東京造形人文学長を辞任。藍綬褒章受章するも、体調は急速に悪化し、

角栄金脈辞任1974＝64歳：

学校法人桑沢学園理事長・桑沢デザイン研究所所長も辞任。桑沢学園長となる。

JALハイジャック・1977＝67歳：

絶筆「桑沢洋子の服飾デザイン」を遺し、衰弱して没した。